「　未来高校における放送教育の取り組み　」

愛媛県　学校法人河原学園　未来高等学校

１　はじめに

本校の前身は平成 11 年 4 月開校の専修学校高等課程「国際情報高等学院」である。平成 19 年 4 月に広域通信制の「未来高等学校」として認可され、平成 30 年度で開校 12 年目を迎える。生徒の中には、退学や不登校を経験した者など困難な状況を抱えた生徒もいるが、いろいろなコースを設けて、個別の生徒の学力の向上を図りながら充実した高校生活を送らせることを目指して日々教育活動を行っている。平成 28 年度から、放送教育研究委嘱校の機会を得ましたので、平成 29 年度も引き続いて全校で放送教育の実践に取り組んでいる。

２　本校の概要

(1)　教育方針

河原学園全体としては、「感謝の心」を育み、未来高校としては「個性で見ればどの子も一番！」をモットーとして教育活動を実践している。

(2)　重点努力目標

１　豊かな人間性の育成

２　確かな学力の育成

３　キャリア教育の推進

(3)　コースの概要

未来高等学校松山本校（以後は本校）は、生徒に目標をもたせて 3 年間で卒業させることを目指し、次のような 4 つの多様なコース設定・学習内容を準備している。

ア　平日コース（週 5 日登校・通学型通信制）

イ　週 2 日コース

ウ　通信制基本コース（月 2 回登校）

エ　集中スクーリングコース（在宅学習）

(4)　教職員数（松山本校教職員数）

	校長	副校長	教頭	教諭	講師	事務	小計	合計
男	1	1	1	5	6	2	１６	２９
女	0	0	0	4	7	2	１３	

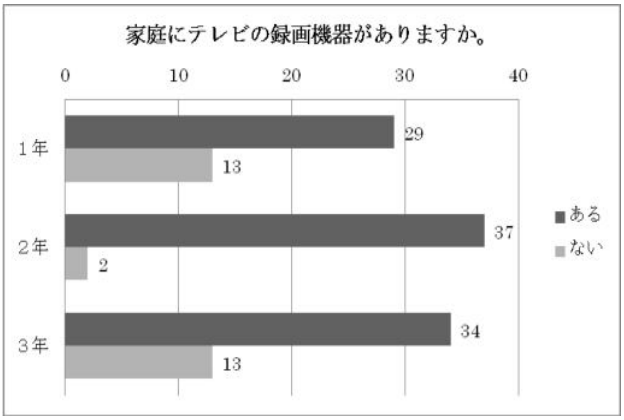
(5)　生徒数

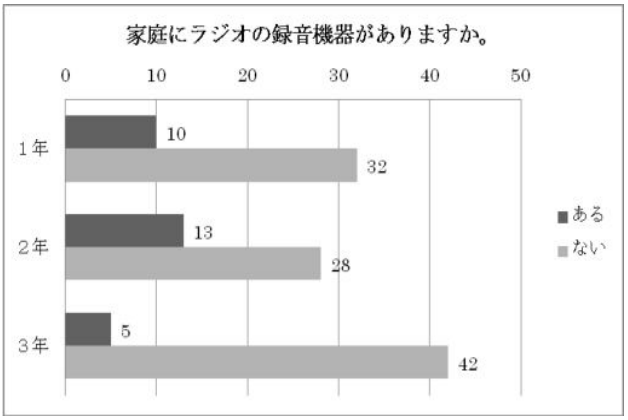
コース名	1 年	2 年	3 年
平日（週 5 日）	３１	３９	３７
週 2 日	１７	２８	２２
通信制基本	２６	３３	３５
集中ｽｸｰﾘﾝｸﾞ	7	２２	１５
後期生	1	3	3
合　　計	８２	１２５	１１２

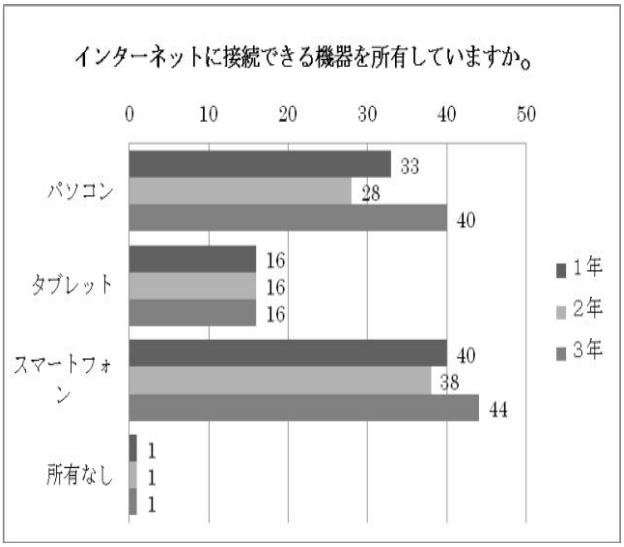
平成 30 年 3 月 1 日現在の本校の生徒数は左表のように３１９名である。本校の特色として、年度途中に他の高校から生徒が転入することで生徒数が増加することがあげられる。平成 29 年度は 5 月 1 日現在の生徒数より６２名が増加している。また、平日コースに在籍する生徒は、中学校時代に不登校傾向にあった生徒が多く、人間関係づくりに課題を抱えており、学力面でも基礎・基本の内容の理解が十

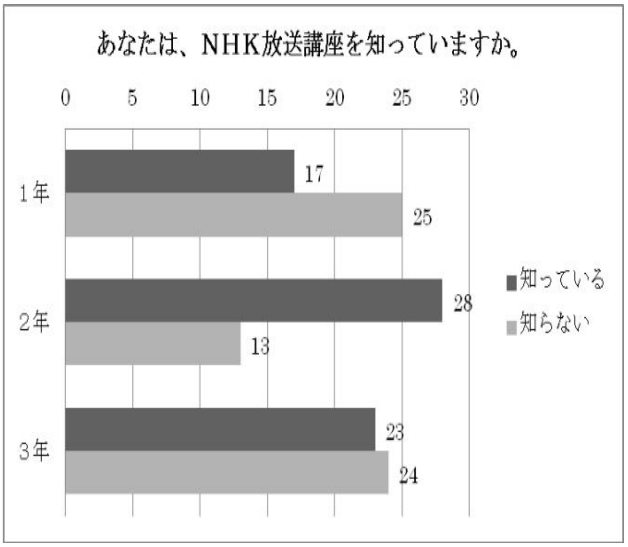
分でなく、教育相談をしながら、学力の向上を促す指導が必要である。特に平成 29 年度は、転入生が全体の２９％がスーパー特進コースへの転入であった。大学進学を希望している生徒が多いことであり、学習面での指導充実がさらに必要になっている。

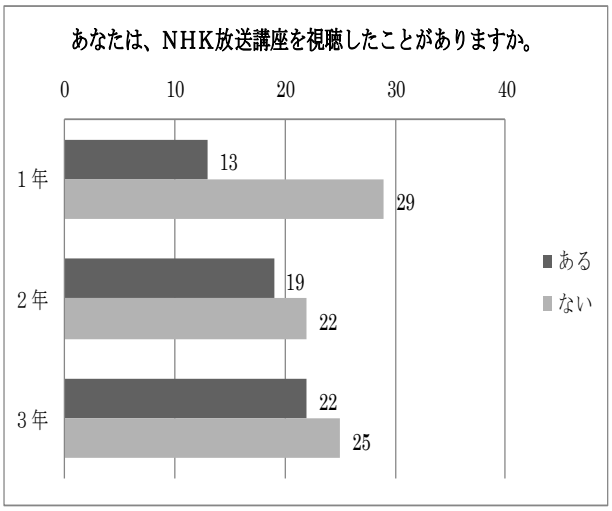
(6)　生徒の環境調査　　（平成 28 年 6 月実施）

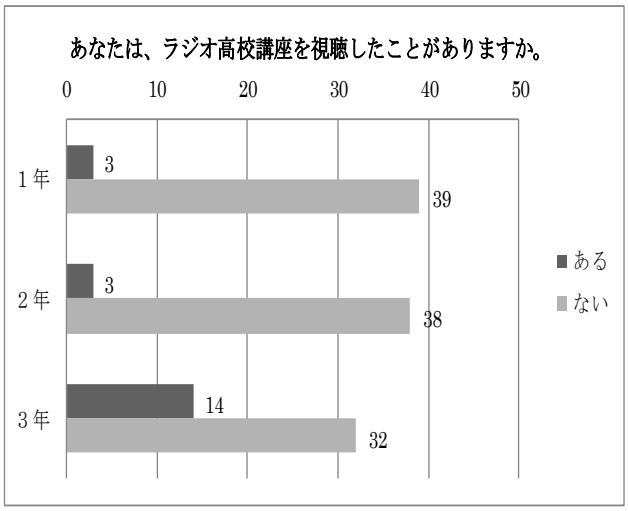






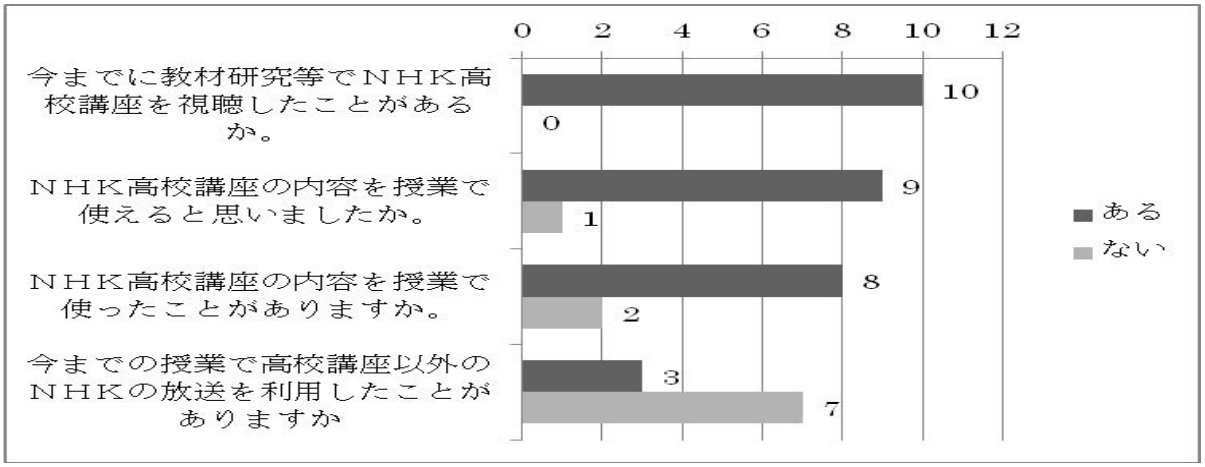






ＮＨＫ高校講座の活用としては、授業の中へ取り入れているが、生徒が自主的にＮＨＫ高校講座で学習するレベルには達していない。また、生徒がスクーリングに参加できなかった場合に、その一部を番組視聴票の提出による認定を行っているが、確実な内容の視聴票の作成ができていないのが現状である。また、平日コース・週２日コースの生徒を対象に行ったアンケート結果をみると、家庭にある録画・録音機器についてはテレビについては８割の生徒の家庭にあるが、ラジオについてはほとんどの家庭になく、ラジオを使った高校講座の視聴については視聴経験の結果からも、使用することが難しい現状にあることが分かった。ＮＨＫの放送教育の認知度も含めて、各授業の中で放送教育の活用についての指導を効果的に行いスクーリングの代替の認定制度についても一層啓発をしながら、意識付けをしていくことが必要であることも分かった。

(7)　教員の放送教育に関するアンケート結果



○　放送視聴票について、実施上の問題点

1　評価が曖昧になること。
2　体育以外範囲を指定していないので、生徒への指示が出しづらい。
3　ＮＨＫ視聴の場合、学習メモの丸写しをして提出してくる生徒がいる。
4　生徒への指示をかなり細かくしないと、生徒は満足に仕上げられないことが多い。
5　使用回数が少なく、具体的な問題点は上げられません。
6　視聴後の生徒の感想は「分かりやすかった」というものだったので、特に問題は感じていない。
7　予習の視聴だとＶＴＲの中身を予習する箇所の選択で悩む。
8　視聴が、教科書の抜粋をまとめた関連内容の復習という形でもよいのではないか。
9　実際に視聴したかどうか判断しにくい。
10　環境が十分でなく「授業の流れの中でスムーズに」進めにくい。
11　認定基準の統一が難しい。
12　地理歴史の場合、ＮＨＫの内容と本校の使用教科書が違うために、生徒の予習内容と視聴内容にずれがでる。
13　他人の視聴票を写す生徒への対応や本当に内容が理解できているかの確認が必要である。生徒の家庭のネット環境への配慮も必要である。

平成28年の4月に赴任した教員と講師を除いた教員10名を対象としたアンケートを実施した。

アンケート結果をみるとどの教員もＮＨＫの放送教育を授業で使用することへの抵抗感はなく肯定的に活用をしていることが分かる。しかし、実際に使用する場面は、担当する教員で違っており、活用に関する計画をしっかり作成することの必要性を感じる結果であった。また、放送視聴票については、１３の問題点が出ており、お互いに研修しながらよりよい視聴票の作成の指導を進めるとともに、効果的な活用の方法を検討していくことが必要である。

３　研究の内容

アンケート調査の結果から、ＮＨＫ高校講座の視聴経験がある生徒が３年生でも半数程度と少ない状況であり、本校での学習を生涯学習につなげる視点からも計画的に高校講座を視聴する習慣を身につけさせることは重要である。そのためには「学校全体として高校講座の活用に取り組み、生徒が自主的な学習にも高校講座を活用するようになる高校講座活用の進め方の研究を行う。」ことをねらいとして、次の内容について継続して研究を進めている。

①　生徒及び教職員へのアンケート実施
②　各教科の年間指導計画の作成
③　視聴の機会を多くする授業実践
④　視聴票の書き方の指導
⑤　研究内容の評価及び次年度の研究内容の検討

４　研究計画

平成29年度の放送教育に関する研修を下記のように計画している。

４月　放送番組の活用状況に応じた視聴番組の年間指導計画への位置付けの明確化
　　・レポートに有効な放送番組の検討
　　・放送番組の活用における課題の共有化
５月　放送番組を活用した授業研究（教員研修）
～　　・放送教育に関する研修会への参加（教員研修）
６月　　・研究内容のまとめ
９月　放送番組活用状況の確認
１０月　放送番組の活用状況の確認及び視聴票の処理
１１月　後期の授業に関する放送番組の活用計画の見直し
１２月
～　　放送番組を利用した授業研究（教員研修）
２月
２月　放送番組の活用状況の確認及び視聴票の処理
３月　単位認定における放送番組の活用状況の確認
　　年間の研究内容のまとめと次年度への課題の明確化
　　次年度の放送教育の充実のための放送番組活用の進め方の検討及び年間指導計画案の作成

5　授業実践の記録

ア　家庭基礎の授業

学　習　指　導　案					
日　時	平成29年　9月　15日（金）14:05　～14:55				
教　科	家　庭	指導者	小椋さやか		
科　目	家庭基礎	講　座	３年調理	教室	３０３教室
単　元	自分らしい人生をつくる	教科書	家庭基礎　（東京書籍）		
指　導 目　標	性的マイノリティと言われる人たちのことを理解することは、多様な価値観を受容できるようになるというだけでなく、自分らしさを考えることにつながることに気付かせ、考えさせる。	指　導 計　画	Ⅳ　人生をつくる （1）人生９０年時代 （2）さまざまなライフスタイル ①結婚・親子関係 ②自分の性と生きる（本時）		
本時の 主　題	性的マイノリティの意味を理解し、自分の性について向き合う。				
前時の 課　題	法律上の夫婦、婚姻関係と、現在の家族のありかたの違いについて理解する。				

		学　習　活　動	時間	指導上の留意点	資料・評価の観察等
学習過程	導入	**1　前時のふりかえり** 現代の家族のありかたについて **2　本時の目標を知る**	5	①婚姻関係、事実婚など多様な家族のありかたがあることを再度認識させる ②性的マイノリティに関するアンケートに答えさせ、知識不足に気付かせる。	【思考・判断・表現】 性的マイノリティへの認識を確認できたか。
	展開	**3　性の在り方** 【高校講座 ch2-1分47秒～3分33秒】 【高校講座 ch2-3分34秒～6分21秒】 **4　しんちゃんの経験談～つらかった日々～現在の活動** 【高校講座 ch3-0 秒～4分45秒,ch5-0秒～4分55秒】 **5　しんちゃんの経験談～現在の生活～** 【高校講座ch5-0秒～4分46秒】	１０ １０ １５ 5	③ワークシートで自分の性の在り方をチェックする。（こころの性、からだの性、好きになる性、表現する性） ④ＬＧＢＴの語句の意味を確認し、ワークシートにまとめる ⑤しんちゃんのチェック表を視聴し、自分の性のありかたと比べる。 ⑥性的マイノリティの語句の意味を確認し、ワークシートにまとめる。 ⑦しんちゃんの経験談を聞いて考える。（つらかったこと、いま伝えたいことは何か、現在のＮＰＯ活動で伝えたいことは何か） ⑧しんちゃんのパートナーとの生活ぶりを見て感じたことを話し合う。	【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 語句の意味と違いを正しく理解できたか 【関心・意欲・態度】 集中して放送を視聴することができているか。 【知識・理解】 性的マイノリティの課題を理解できたか 【関心・意欲・態度】 しんちゃんの立場に立って親身に考えることができているか
	整理	**まとめ**	5	⑨性的マイノリティの人たちに対しての考えの変化、自分の性を見つめることの大切さにふれる。	【思考・判断・表現】 性の在り方を自分の問題として考えることができたか

次時の 課　題	ワークライフバランスについて調べてくる。
備　考	受講人数（男子３　人・女子３　人）：（　調理　）コース（　３　）年 NHK高校講座　家庭総合7月27日放送「共生　自分らしさって？～性的マイノリティ～」を高校講座と簡略記述する。　ch：chaptter

9月15日実施の家庭科の授業に関する自評

1　自評

現代における「家族」「夫婦」を考える際に、性のありかたについて考えることは不可避となっている。家庭総合では、共生の領域で扱っているが、本校では家庭基礎の、人生のありかたを考える中で「多様なライフスタイル」の中に位置づけて学習させた。性的マイノリティについては、本校にもこの問題を自分の問題として深刻に悩んでいる生徒もいる。語句の学習だけにとどめることもできるが、その場合、こころない生徒の揶揄するような言葉が出ることもあり、いたずらに当事者を傷つけてしまう恐れがある。そこで今回の授業では、当事者「しんちゃん」が語ることから学ぶということに主眼を置き、その声を通して理解を進めることとした。お笑い芸人の二人が発する感想の言葉には、生徒たちが感じるであろう「おどろき」も素直に盛り込まれており、それに対する講師のフォローも適切であった。性的マイノリティを理解することは、マジョリティであることの安心感を増長し、差別につながりかねない要素も含んでいる。当事者である「しんちゃん」が悩んだ先に、カミングアウトを選び、周りが理解し、現在ＮＰＯ活動で性的マイノリティへの理解を訴える活動をしていること、理解しあえるパートナーにも巡り合えた、という流れもプラスのイメージにつながっていく。ただ、その際にも、講師が「カミングアウトがすべてではない」ことを付け加えてくれているので、悩んでいる当事者の生徒にもストレスにはならないよう配慮されていた。今回の授業研究に関し、この回の放送を１０回視聴した。言葉の選び方や表現など繰り返し見る中できめ細やかな配慮が随所に感じられた。生徒の感想やアンケートが性的マイノリティに対してプラスに変化した結果は、この放送内容のきめ細やかな配慮にあると感じ、今後もこういう番組をしっかりと視聴し教材研究していく必要があると感じた。

2　生徒の反応

①　授業の中に高校講座が入り、良く理解できたか。

とてもそう思う…4人　少しそう思う…2人　あまりそう思わない…0人　特にそう思わない…0人

②　授業の中に高校講座が入り、興味がわいたか。

とてもそう思う…4人　少しそう思う…2人　あまりそう思わない…0人　特にそう思わない…0人

③　今後授業の中で高校講座を取り入れてもらいたいか。

とてもそう思う…3人　少しそう思う…3人　あまりそう思わない…0人　特にそう思わない…0人

感想

- しんちゃんの実話がすごかった。びっくりした。
- しんちゃんの苦労を思うと、今まで知らなかったことが多くて、これからはちゃんと理解したいと思った。
- キモいと思っていたけど、そんなことないなと思った。

3　次回への改善

放送視聴に時間が長いため、アンケートに答えたり、ワークシートにまとめたりする時間が短くなってしまい、生徒が考えをまとめる時間に余裕がなかった。感想を次回までの課題にするなど、時間配分を工夫する必要がある。

イ　倫理の授業

学習指導案					
日　時	平成３０年１月１７日（水）　10:30　～　11:20				
教　科	公民	指導者	濱田　次郎		
科　目	倫理	講　座	２年平日	教室	502 教室
単　元	環境・国際社会と人類の福祉	教科書	倫理（東京書籍）		
指　導 目　標	1　環境問題を再認識し改善に対し意欲的になる 2　国際社会の中で環境・福祉の問題を解決する相互理解の必要性を知る	指　導 計　画	１生命 ２家族 ３地域社会 ４情報社会	５文化と宗教 ６環境（本時） ７国際平和と人類の福祉	
本時の 主　題	1　日常無意識の常識の中に環境問題の知識が身についていることを確認する 2　環境問題の改善・解決において武力を含めた制圧的な抑止だけでなく思考や慈愛による抑止の事実を認識する 3　今後の自己の人生をよりよく生きるために国際社会の中で慈愛の心を大切にし、他者（国）のイデオロギーを尊重していこうとする				
前時の 課　題	1　情報化社会の中でそれぞれのアイデンティティのもとどのように自己の欲求を満たすために活用するかを考え、行動することの大切さを認識する 2　それぞれの国のイデオロギーを尊重した上で平和を追求する必要性を認知し、国際化に対応すべく学ぶことに意欲的になる				

		学　習　活　動	時間	指導上の留意点	資料・評価の観点等
学習過程	導入	日常で耳にする環境問題を整理する 1）環境問題名 2）問題となっている原因 3）解決法　4）その他の関連知識	10	思い当たる環境問題を単語で発表させ、数名で関連する知識を交換させ、認知を定着させる発問をする。	・日常の生活が学校で学ぶべき知識になっていることを自覚する 【関心・意欲・態度】
	展開	１意見を出し合ったことを板書にまとめ、知識として理解、定着する ２武力に限らず歴史を通して罰則規定で環境問題を解決しようとした事実を知る ３ワシントン条約と京都議定書の特徴を理解する ４身近な環境問題に関する知識が整理され、今後の情報収集に意欲的になる	7 5 15	全員の発表内容が文字板書となり、まとめられる工夫をする ⇒レポート解答とも連動させる 環境問題意識が年々広く定着している事実を意識させ、その経緯に興味を持たせる	・丁寧にまとめる 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 ・レポート作成時に授業内容と日常の繋がりに満足する。（日常の知識吸収に意欲的になる） 【関心・意欲・態度】 エコ活動が定着してきた原因について考える 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】
	整理	まとめ 高校講座の番組を聴く 【豊かに生きるとは8:44】 学習メモの配布	13	本時で学習したことを振り返り、今後の国際社会でよりよく生きようとする心構えを伝える。	・高校講座の番組を聴く 【知識・理解】

次時の 課　題	現在の世界の課題について考えておく。
備考	受講人数（男子８人、女子３人） NHK 高校講座を高校講座と簡略記述する。

1月１７日　公民（倫理）の授業実践に関する自評

（1）　自評

普段の授業では映像資料を活用することが少なく、特にまとめでは私のまとめで授業を終えることが多く、生徒の印象に残る内容が授業の内容よりも自分の考えに偏っていると感じていた。その点、映像でまとめをしたことで授業の内容に関するまとめができたと考えられる。全員が同時に同じ内容が見られるということ、チェックを入れながら見せることができることは、教育効果が高いと感じた。さらに、教員がするだけでなく、高校講座からの解説が入ることでマンネリしがちな授業のまとめの雰囲気も変えることができたことは良いと感じた。

しかし、普段使わないまとめへの炉用であったために、映像を見せる長さや解説を入れるタイミング、量など改善すべき点が多いものになってしまった。また、学習メモに記入させることで、理解度についても確認するようにはしたが、そのための時間確保が必要で、実際の授業の時間が短くなってしまったことで、教員も生徒も落ち着いて授業を受けることが大変だったように感じる。

（2）　生徒反応

①　授業の中にNHK高校講座が入り、よく理解できたか。

よく理解できた…3 人　　理解できた…6 人　あまり理解できなかった…1 人　理解できなかった…1 人

②　授業の中に NHK 高校講座が入り、興味がわいたか。

とてもそう思う…3 人　そう思う…4 人　あまりそう思わない…3 人　そう思わない…1 人

③　今後、授業の中でNHK高校講座を取り入れてほしいですか。

とてもそう思う…3 人　そう思う…3 人　あまりそう思わない…4 人　そう思わない…1 人

④　今後、個人的に自習等でNHK高校講座を利用しようと思いますか。

積極的に利用した…2 人　利用したい…3 人　あまり思わない…4 人　思わない…2 人

（理由）

・　映像があった方が、音声よりは頭に入やすい。
・　家で手軽にみられるという点で、すぐに観られて便利だと思います。
・　参考書で勉強した方がためになるから。
・　高校講座を利用するよりも、先生や友達に分からないところを教えてもらった方が分かりやすい。
・　一人で視聴しても集中できないと思う。

⑤　動画視聴をしてよかった点（○）・不便な点（△）は何ですか。

○　一般的な授業スタイルに近いのが良かった。
○　隙間時間に勉強できるのがいいところである。
○　内容を受け取りやすいところ。
○　学校の授業でしない内容も分かるから。
○　知らないことを少しでも知る良い機会になると思います。
△　倍速がないこと。
△　自分の調べたいところをすぐに調べられない。（２名）

⑥　感想

・　今回の音読の放送を活用した授業を体験して、やはり動画の方がいいと思った。
・　自分は班で勉強するのがすきなので、授業は先生に質問して自分の考えとかを勉強するこれまでのままの授業がいいです。
・　家で簡単に観られるというところが、どんな人でも見やすく、復習しやすいと思いました。
・　先生や友達に教えてもらう以外にも動画を見て学べることもあると思うので使ってみようと思います。
・　音読だけの内容でもよかったと思いました。

（3）　次回への改善

・　NHK 高校講座の活用するタイミング・長さに関しては、単元や指導目標に合わせて検討すべきである。
・　視線内容に合わして、プリントを工夫し、板書や高校講座の内容が一枚の紙にまとめられるようにする。
・　授業の導入段階で学ぶ内容について確認し、授業の流れが生徒に分かる展開にしておく。

ウ　英語の授業

学　習　指　導　案					
日　時	平成30年2月6日（火）　9:30　～　10:20				
教　科	外国語	指導者	岡部　敬介		
科　目	コミュニケーション英語Ⅰ	講　座	1年平日コース	教室	503
単　元	Lesson10 I Am Malala	教科書	All Aboard! English Communication Ⅰ（東京書籍）		
指　導 目　標	本文の流れ、単語・熟語の意味を理解させ、その中で様々な比較表現に触れ理解させる。	指　導 計　画	2つを比べて「同じくらい」（本時） 2つを比べて「より～」 3つ以上のものを比べて「いちばん～」		
本時の 主　題	本文の流れ、単語・熟語の意味を理解し、原級について理解を深める。				
前時の 課　題	単語・熟語・本文の流れ・原級の意味を調べる。				

		学　習　活　動	時間	指導上の留意点	資料・評価の観点等
学習過程	導入	【高校講座 (オープニング)20秒】 **1.文法の意味について理解する** 【①高校講座39秒】	1 1	①文法学習の基となる会話を聞き、文法への意識を高めさせる。	視聴の準備ができているか。 文法がどのような意味か理解しているか。 【関心・意欲・態度】
	展開	**2.会話の流れの中で文法表現を把握する** 【②高校講座3分46秒】	4	②日常会話の表現を理解させ、新たに学ぶ文法がどのような形で使われているのかに意識を集中させる。	日常会話を理解できているか。 【知識・理解】
		3.本文の概要を把握する 【③高校講座2分1秒】	3	③本文の概要(Malala とはどういった人物か)について理解させる。 (教科書P.90)	集中して視聴することができているか。 【理解の能力】 【表現の能力】
		4.重要文法を理解する 【④高校講座2分27秒】	3	④本文の中に使われている文法について深く理解させる。 (教科書P.90)	文法の仕組みを理解できているか。 【知識・理解】
		5.本文を理解する 【⑤高校講座6分28秒】	10	⑤放送される文と教科書の本文を照らし合わせ、文の流れ・意味を意識しながら集中して聞くように促す。 その際、重要箇所で放送を止め、適度に補足説明を加える。 (教科書P.90～91)	本文の内容が理解できているか。 【理解の能力】
		6.文法について最終確認する 【⑥高校講座31秒】	1	⑥文法に焦点を絞り、まとめさせる。	文法が理解できているか。 【知識・理解】
	整理	**まとめ**	20	本文の概要を再度まとめて説明し、文法事項についての確認テストを実施する。	本時の指導内容が理解できているか。 【理解の能力】

次時の 課　題	2つを比べて「より～」（比較級）について理解を深める。
備　考	受講人数（男子3人女子3人） NHK高校講座を高校講座と簡略記述する。

『コミュニケーション英語Ⅰ』(2月6日実施)の授業に関する自評

1　自評

全体的に、生徒の興味・関心を引き立てるような授業を展開することができた。旬なお笑い芸人によるジョークを交えた会話によってメリハリが生まれ、生徒は集中して視聴することができていたように思う。放送途中での補足説明については適度なタイミングで実施することができ、生徒の理解度向上にも繋がったのではないかと感じる。

2　生徒の反応

①　授業の中に高校講座が入り、良く理解できたか。

とてもそう思う…1人　少しそう思う…4人　少しそう思わない…1人　そう思わない…0人

②　授業の中に高校講座が入り、興味がわいたか。

とてもそう思う…0人　少しそう思う…4人　少しそう思わない…2人　そう思わない…0人

③　今後授業の中で高校講座を取り入れてもらいたいか。

とてもそう思う…0人　少しそう思う…4人　少しそう思わない…2人　そう思わない…0人

④　過去高校講座を自習で使用したことがあるか。

ある…0人　ない…6人

⑤　今後個人的に自習等で高校講座を利用しようと思うか。

とてもそう思う…0人　少しそう思う…3人　少しそう思わない…1人　そう思わない…2人

(理由)

・　簡潔で良く分かった。

・　英語とか苦手な授業が多いので、少しでも見ようかなと思った。

・　普段、授業でやっているプリントやＩＣＴで十分だと思ったから。

⑥　動画視聴で良かったこと（○)、不便なこと（△)

○　解説が少し分かりやすかったところ。（２人)

○　画質が綺麗で見やすかった。

感想

・　解説など動画で会話するので、より分かりやすく、いつでも見られるところがすばらしいと思いました。

・　重要ポイントがまとめられており、わかりやすかった。

・　普通に授業をする方が個人的には良い。

・　動画でいつでも見られることが素晴らしいと思った。

3　次回への改善

放送に集中させる時間も必要であるが、補足説明の際に生徒への発問やコンタクトをもう少し増やし、直接的に生徒の理解度を確認したい。

6　視聴票の作成

(1)　理科の説明

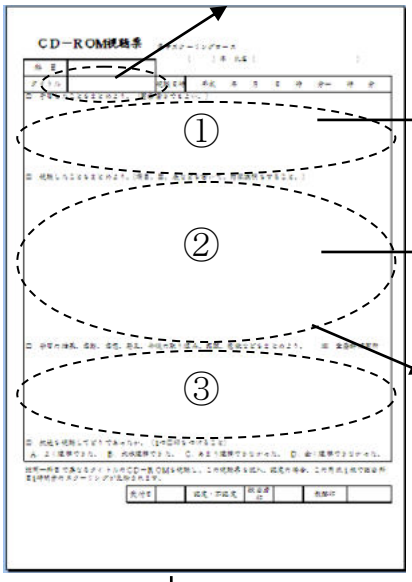
① 教科書と視聴票とＤＶＤ－ＲＯＭを用意
② ＤＶＤ－ＲＯＭを起動(→図１)
③ 教科書の表紙をクリック(図１)
④ 目次が表示される(図２)
⑤ 視聴したいところを視聴する(図３)
　教科書のページ数が対応しているので、そこを視聴していく
⑥ 図４の画面が表示されたら『play』を押して視聴していく
⑦ 図５のように板書が書かれていくので、それをまとめる
　あわせて、聴いたことで大事なこともまとめる
⑧ しっかりと空白を埋めること
⑨ 色ペン等も活用できると、より good ！
⑩ 以上のことが出来ていないと認定されないことがある
⑪ 興味のある範囲からやり始めても構わない

【注意】

・TV・ラジオを視聴する場合は、視聴票の用紙が異なるので注意すること

・『体育』は視聴票の用紙が異なり、また範囲が指定されているので注意すること

視聴した場所の範囲を記載する
例：細胞のはたらきと構造



視聴する前に教科書を利用して、視聴する範囲をまとめる。用語をまとめる。
（空白を埋めること）

視聴したものをまとめる
（図５の板書等チェックがついた図なども書き写すとよい。）
（空白を埋めること）

疑問・質問・感想等を記入する。
３行以上記入すること（空白を埋めること）

完成例

（注意）
文章量が少ない場合や空白が多いと不認定となります。その場合は再提出となりますので気をつけてください。

図１

図２

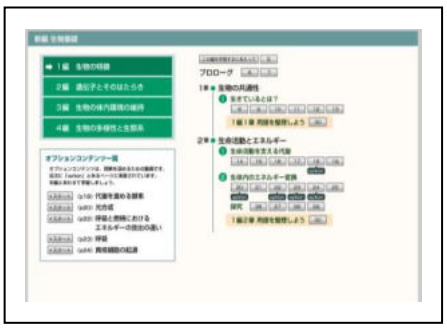


図３

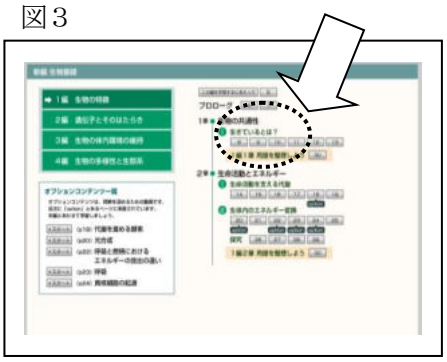


図４

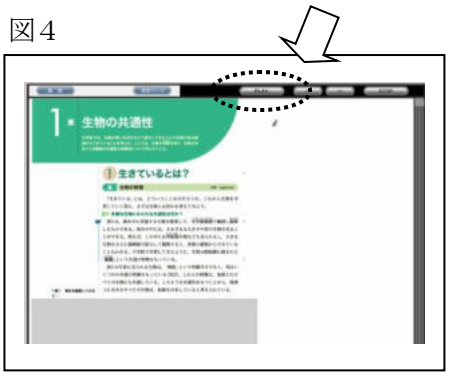


図５

⑵　ＮＨＫ高校講座の視聴方法（インターネットを活用して視聴する場合）

①インターネットの検索フォームで『ＮＨＫ高校講座』又は
『http://www.nhk.or.jp/kokokoza/』を打ち込み検索をかける【図１】

【図１】

②「ＮＨＫ高校講座」を選択する【図１】

③「ＮＨＫ高校講座」のホーム画面が表示される【図２】

【図２】

④視聴する科目を選択する（例：コミュニケーション英語Ｉ）　【→図２】

⑤コミュニケーション英語Ｉのホーム画面が出てくる　【図３】

【図３】

⑥視聴する範囲を選択する（視聴したいところからで構わない）

⑦「Lesson１」を視聴する場合、「１学期」を選択し、探す【図３】

⑧「Lesson１」を選択する【図４】

【図４】

⑨番組が自動的に開始される【図５】

⑩【図５】の画面が表示されたら視聴を開始し、【図６】のように番組の中での大事なポイントをまとめていく

⑪　ポイントをまとめる際に「文字と画像でみる」や「学習メモ」を参照しても構わないが、丸写しは不可とする

⑫　【図４】のように指定の範囲で視聴表１枚分である

⑬　しっかりと空白を埋めること

⑭　色ペン等も活用できると、より good　！

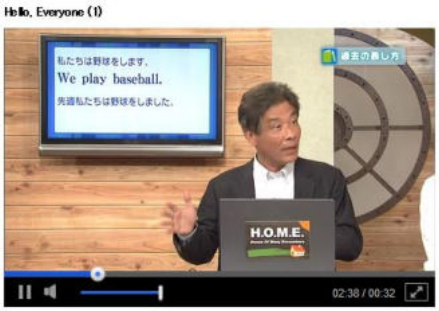
⑮　以上のことが出来ていないと認定されないことがある

⑯　興味のある範囲からやり始めても構わない

【図５】

【図６①】

【図６②】

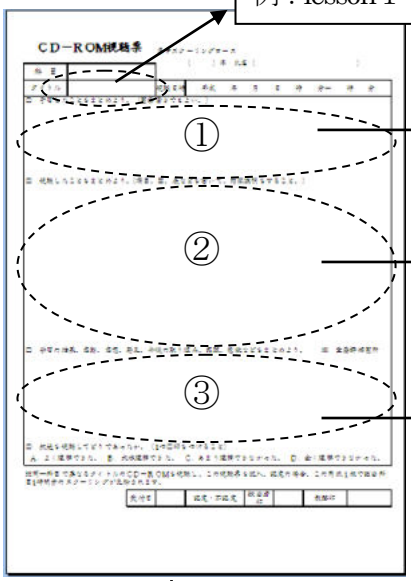


【注意】

・TV・ラジオを視聴する場合は、視聴表の用紙が異なるので注意すること

・『体育』は視聴表の用紙が異なり、また範囲が指定されているので注意すること

視聴した場所の範囲を記載する
例：lesson１



視聴する前に教科書を利用して、視聴する範囲の新出単語や熟語、文法等をまとめる（空白を埋めること）

視聴したものをまとめる
（図６の板書等）
（空白を埋めること）

疑問・質問・感想等を
記入する。
３行以上記入すること（空白を埋めること）

完成例

テレビ視聴票　（平日コース）　通信制基本コース・集中スクーリングコース

（ 3 ）年　氏名（　　）

科　目	生物基礎		
放送タイトル	生物の特徴，細胞にみられる共通性と多様性	放送日時	平成 30年 2月 1日 10時50分～11時37分

◎ 予習したこと。（必ず予習してから視聴すること。）

生物は細胞膜に囲まれた「細胞」という共通の特徴をもっている。

細胞は遺伝物質としてDNA（デオキシリボ核酸）をもっている。

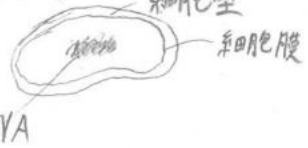
核をもつ細胞…真核細胞という。⇒真核細胞からなる生物を真核生物と呼ぶ。⇒DNAは核の中にある。

核をもたない細胞…原核細胞という。⇒原核細胞からなる生物を原核生物という。⇒DNAは細胞質基質の中にある。

真核細胞は動物細胞と植物細胞の2つに分けられる。

図 真核細胞

図 原核細胞



◎ 視聴したこと。

生物は地球上のいたる所に住んでいる。

人間では過ごすことができない所でも生きていける生物もいる。（例）クマムシ）

生物にはかならず細胞がある。

生物は自分と同じ構造を子孫に残すしくみを持っている。

生物は生きていく上で体内をベストな状態に保つしくみを持っている。

↓

クマムシは「樽」という特殊な仮死状態（乾眠）で過酷な環境に耐える。

生物に共通する6つの特徴（細胞・DNA・エネルギー・子孫・体内環境・進化）

◎ 印象に残ったところ。（把握したこと、疑問点、質問などを書くこと）

・地球には形も大きさも多様な生物が生息していること。

・太陽光の届かない深海に生息する生物や高温や低温にも耐えられる特殊な生物もいること。

・全ての生物には共通の特徴があること。

◎ 放送を視聴してどうであったか。（1つ○印をつけること）

(A) よく理解できた。　B. 大体理解できた。　C. あまり理解できなかった。　D. 全く理解できなかった。

※同一科目で異なる放送タイトルのテレビ番組（1番組）を視聴し、この視聴票を記入、認定の場合、この用紙1枚で該当科目1時間分のスクーリングが免除されます。

受付日	2/5	(認定)・不認定	担当者印	若山	教務印	

7　年間指導計画作成の工夫

通信制基本コースと集中ｽｸｰﾘﾝｸﾞコースの年間指導計画を作成するときに、同時に指導者が推薦する放送視聴番組を一緒に作成をしている。今までは、生徒が自分で視聴しやすい放送番組を選んで視聴票を作成・提出していたが、評価が難しかったり、採点の基準の明確化ができていなかったりと課題がでてきているので、どのように放送視聴をさせていくかの検討を進めている。

(1)　推薦視聴番組一覧例

担当者氏名	岡部　敬介 西高　由貴	担当教科	外国語		
科　目　名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3	放送視聴可能時間	7
使用メディア	テレビ　・　ラジオ　・　DVD				
題材名	NHK 高校講座　・　DVD 名（　　）				

推　薦　視　聴　番　組

順位	放送日時	番　組　名
1	5/2	Hello, Everyone(1)
2	5/23	A Letter to Australia(1)
3	6/6	Kawaii Culture(1)
4	6/27	A Symphony of Soup and Noodles(1)
5	7/11	Lifelong Friends(1)
6	9/5	A Funny Picture from the Edo Period(1)
7	9/26	Living on Ice(1)
8		

7　おわりに

(1)　研究の成果

放送教育研究の委嘱を受けて、実践を進める中で、次のようなことが分かってきた。

○　生徒や教員の実態を把握することで、本校の抱えている放送教育への課題が明確になってきた。それに基づいて、学校としてさらに、放送教育の活用をはかるためにも、生徒の状況に応じたＮＨＫ高校講座の活用を中心とした教員・生徒への啓発が必要なことが明白になった。

○　平日コースや週２日コースの生徒の家庭環境に配慮して、授業の中にＮＨＫ高校講座の内容を計画的に取り入れることで学習を深めることができることが教員に実感されてきたと考える。また、生徒一人一人の状況に応じた高校講座の活用や自習学習への放送教育活用のあり方を研修する必要性も共有できた。

(2)　課題

今後は継続して、次の内容の取り組みを進めたい。

○　各教科の年間の指導計画を作成するときに高校講座の位置付けをより明確にしていく。

○　生徒が確実な視聴票を作成できるようにする指導をどのように推進していくか教員の共通理解を図る。また、視聴票の採点や評価への位置付けが明確になるように工夫を継続していく。

○　教員が意識して高校講座を授業に取り入れるために、どのような活用方法があるかを学校全体として研修・実践していく。

○　高校講座の活用が、定着していくためにどのように研究を推進していくことが必要か検討をしていく。